

日本薬学会 第 136 年会

ポスター発表 要旨

【演題】コンタクトレンズ装着時の点眼可否判断に関する調査

そうごう薬局桜台店 田村幸恵

そうごう薬局 天神センタービル 5 階店 山口友希

【背景】コンタクトレンズ(以下 CL)使用患者の点眼薬使用は、保存剤のベンザルコニウム塩化物の吸着による角結膜障害の報告があるため、一般的に CL を外すことが推奨されている。しかし、通年性アレルギーなど点眼薬を長期に渡って使用する患者は、その間 CL の装着を希望する場合も多く薬剤毎の情報提供が必要となる。一方で、装着時の点眼可否について近年まとめられた文献は少ない。そこで製薬メーカーへ聞き取り調査を行ない判明した情報提供の課題について報告する。

【方法】そうごう薬局福岡中央ブロック 14 店舗で治療用に使用されている点眼薬 95 製剤について、製薬メーカーに以下の聞き取りを行った。1)ハードレンズ、ソフトレンズ装着時での点眼可否 2)点眼後の CL 再装着までの時間 3)点眼可否の検討試験データ有無。

【結果】今回の調査で、点眼薬の成分が吸着しづらいとされていたハードレンズにおいても素材により点眼不可とする回答が全体の 7 割近くあった。また、保存剤を含まない 12 製剤においても CL 装着時に点眼不可のものが 6 製剤見られた。点眼可否を判断する CL 吸着性の検証試験を実施した製品は 6 製剤と少なく、多くは CL 吸着性に関する一般論文を各メーカーで解釈して見解としている状況があった。

【考察】点眼可否に関する情報提供は、メーカー毎の見解の違いや検証試験データの少なさから、根拠に乏しい状況であることが明らかとなった。今回点眼可とされた製剤や、CL 装着前後に点眼できる 1 日 1~2 回点眼の製剤の選択などに加えて、今後は患者の病態や状況を医師と考慮した上で、より最適な薬剤選択を目指していきたい。